

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援さくらボViitta		
○保護者評価実施期間	2026年1月6日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	2025年12月1日		2026年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先及び保護者からの信頼を得られる支援が提供できている	保護者のニーズや訪問先の理念・方針を尊重した関わりを重視している。また、スピード感のあるフィードバックと計画性も重視している。	訪問支援に関する技術・知識の向上のための研修実施と活動内容の共有に努める。
2	職員それぞれの経験や資格を活かして、より対象児の特性や個性を捉えた支援が強みである。有資格者を積極的に配置することで、資格取得の中で学んできた対象のアセスメント・指導計画立案・評価の知識が活かされ、質の高い支援が提供できている。	研修の積極的な実施や受講助成により、職員の質の向上に努めている。無資格の場合でも仕事継続のモチベーションになるように資格取得を支援している。	法人のネットワークを活用し、専門的なアドバイスが得られる体制を整えていく。
3	子どもを取り巻く環境へのアプローチを意識し、関係機関や保護者との連携を重要視している。	事業所では問題がなくても園・学校や家の中で問題が生じている場合があるため、保護者との情報共有を大切にしている。時には、生活リズムの改善や家庭での取り組みなど協力いただくために保護者に助言することもある。	通所児童の利用のみならず、訪問支援事業を拡大できるように運営体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	契約数が少ない	経験や技術・知識が豊富で、訪問支援員として登録できる職員が少なく、負担を考え積極的に広報活動をしていない。制度が確立してからの全国的な実績も少ないため訪問先の理解が得られず、継続できない事例もあった。	優良事例として積極的に広報し、制度の有効利用について、保護者と共に、園や学校にも周知していく。
2	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会がない	昨年までの評価では他の保護者との交流を求めているという意見もあり、今年度は個別の相談対応などの家族支援に重点を置いていた。	次年度は保護者対象の研修会を定期的の実施する計画を立てている。保護者同士の交流による情報交換の促進に寄与する。
3	HPやブログ、SNSを活用した事業所活動の公表が少ない	個別の活動報告はSNS上でおこなっているが、運営体制の問題で定期的なブログ更新ができなくなった。また、ブログの利用を中止した。	HPを有効利用し、次年度は情報発信を定期的に行えるような体制を整えている。